



七尾こども能楽教室発表会

日本の舞台芸術に挑戦！ 小丸山小学校5年生



3年前から始まった能楽教室。能を通して、日本の伝統文化に触れる。

能登宝生会の方から全11回の指導を受け、いよいよ晴れの舞台。緊張した児童もいたが、仕舞では、堂々とした舞を。連吟では、独特の筋廻しを見事に謡った。

この貴重な体験から、児童はすぐ何かに取り入れるというより、日本古来の芸能の大切さを感じ、この良さを未来の子どもたちに伝承する機会になったのでは。



400枚の連凧 大空を舞う！



心配された雨は降らなかつたが、凧揚げに一番大事な風がない状態。連凧中止の心配もしていたが、参加者の気持ち伝わったのか、開始1時間後、風が吹いてきた。子どもたちの「連凧、揚げたい！」の一言で、協力者である日本海内灘砂丘凧の会の人たちが「やってみよう！」と試みた。100の連凧を4つ、合計400を舞い上げることに成功。参加者は「龍が天に昇るようだ」と初めて見た連凧に感動していた。

凧揚げ大会(長谷川等伯没後400年記念)
 ～みんなで描いた400枚の水墨画凧を大空へ～

◎市内で行われた活動やイベントを紹介します。



10月31日：ワークパル七尾

2年に1回開催される七尾まだら保存伝承師認定審査会が開かれ、56人の七尾まだら愛好家が保存伝承師を目指し、審査会に挑んだ。部門は、歌、踊り、三味線。また、「七尾まだら」の解説ができることも認定必須内容。全国に約50ある「まだら」の中でも活発な活動で評価が高い「七尾まだら」。12月23日（木）に開催予定の1,000人で「七尾まだら大合唱」にも期待したい。

七尾まだら保存伝承師認定審査会
七尾まだら保存伝承を目的に



10月23日：能登島曲町

環境の変化や高齢化の影響などから、山や田畑を整備する人が減り、景観が悪化しつつある。そこで、景観を向上させるため、能登島里山里海景観向上プロジェクトチームが立ち上がった。最初の試みとして、能登島曲地区の遊休地にオリーブを植えて能登島の特産物にならないかと試験栽培を実施。オリーブで能登島の環境がどのように変わるのか楽しみである。

能登島里山里海景観向上プロジェクト
能登島の顔として、オリーブも！



11月6日（土）：能登演劇堂

東京からスタートして、全国（1都1府10県）をクラシックカーで周遊する【RARRY NIPPON】がやってきた。クラシックカー80台が集結。時代を感じさせるスタイルやエンジン音など、集まった人たちを魅了。また、雅楽演奏家として活躍する東儀秀樹さんもこのラリーに参加。ステージ上で演奏を披露。車と音楽とを融合させ、幻想的な空間を作った。

ラリーニッポン
文明の最高傑作が一堂に集結



11月1日（月）：七尾駅前

「市民の幸せの和“わ”」を合言葉に市民のねがい推進協議会の推進員64人があいさつ運動を行っている。毎月第1月曜日に行われ、場所は5カ所（七尾駅・徳田駅・田鶴浜駅・中島中学校前・能登島小学校前）。推進員からは「最近、学生からあいさつをする人が増えたが、まだまだ少ない。継続は力なりでがんばらなきゃ」と。朝の爽やかなあいさつで一日が必ず変わるはず。

「市民のねがい」あいさつ運動
笑顔であいさつ 市民の和

湾岸桜植樹イベント
～桜いっぱいのもちづくりを目指して～



11月7日（日）：
鶴の里公園（舟尾町）

この記念植樹に関係者や地元の住民など、200人が参加。この日に植えた桜の木は、海風に強い大島桜60本。この日のために、舟尾町の人たちが2週間前から除草作業や苗木、添木の準備などで汗を流してきた。「この木がすくすくと育ってくれば」と願いを込めながら植樹をした。今後、湾岸道路を中心に苗木配布事業を行う予定。湾岸全域に桜が咲けば、新たな名所が誕生する。

長谷川等伯没後400年記念植樹
画聖 長谷川等伯をたたえて



10月31日（日）：
七尾市役所前広場

記念植樹では、長谷川等伯の代表作である「松林図屏風」と「楓図」に描かれている松と楓を植樹した。主催した「等伯会」は、設立30周年。没後400年記念とが重なり、参加者からは「意味深い年となり、これからも長谷川等伯の偉業を後世に伝えていく活動をしていきたい」。植樹した松と楓の広場は、長谷川等伯を感じる場所になることは間違いない。